

情報共有

非管理メモ

(2枚)

NISA刊モ ← プレス対応T

プラント状況（本店ブリーフィング）議事メモ

暫定版

東京電力株式会社

11/27 20:30' 広報班

取扱不可

日時：平成 23 年 11 月 27 日（日）11:00～11:20

場所：東京電力本館 101 会議室

先方：記者 12 名（カメラ 3 台）

当方：広報部

配布資料：なし

よりプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. 2号機の HVH 戻り温度の上昇はいつ頃から始まったのか。

A. 11月 24 日頃から約 1°C/日程度の上昇傾向であった。直近では今朝 5 時の段階で 78.2°C だが、6 時 50 分に 84°C に上昇していることを確認した。

Q. 当該箇所の温度上昇により、復旧作業に何か影響は出るのか。

A. 調査結果しだいだが、大きな影響はないものと考えている。

Q. 2号機の圧力抑制室（原子炉抑制室）のガス温度のオーバースケールについて、上昇幅が非常に大きいが、どの程度の時間で上昇したのか。

A. 11月 26 日の午後 5 時で 52.7°C であったが、23 時の段階でオーバースケールの表示を示していた。本日 5 時時点では 102.6 度になっている状態である。HVH 戻り温度の上昇を含め、調査を実施したい。

Q. 3号機の使用済燃料プール循環冷却システムの冷却塔の散水弁の閉事象について、現時点では弁は開状態になっているのか。

A. 開状態である。

Q. 3号機の使用済燃料プール循環冷却システムの冷却塔の散水弁の閉事象は今回で 2 回目か。

A. 11月 19 日にも類似事象が発生しており、対策として当該箇所には元弁を操作しないように操作禁止をする旨の札を取り付けている。本件発生の原因については現在確認中である。

Q. 当該事象は 2 回目であるが、故意的なものと判断しているのか。

A. 確認中である。

Q. 1回目の事象発生後に作業員に対して聞き取り調査を行っていると思うが、それはどの程度の人数に対して、どういった内容で行ったのか。

A. 確認する。

Q. 最後に開状態であることを確認したのはいつか。

A. 前回事象(11月19日)の際に当社社員が開操作を実施したときである。

Q. 昨日は開状態だったのか。

A. 昨日の昼頃に3号機の使用済燃料プール代替冷却設備の1次側の熱交換器の出入り口の温度差が小さくなっていることを確認している。

Q. 散水弁を閉めなくてはいけないような作業は直近であったのか。

A. 特にそういう作業は特段聞いていない。

Q. 1号機タービン建屋の水位が200mm以上下がっているが、原因は。

A. 1号機のタービン建屋から2号機のタービン建屋へ移送を実施していることによるものである。

Q. 移送をすることによってこれほどまでに水位が上昇するものなのか。

A. 1号機タービン建屋から2号機タービン建屋への移送によるものと考えている。

Q. HVH戻り温度は格納容器内の温度を測定しているのか。

A. その通り。

Q. 約50℃も温度上昇が見られることについて、計器の不具合の可能性が大きいと判断しているのか。

A. それも含めて確認中である。

以 上

情報共有

非管理メモ

(1枚)

NISA ← プレス対応 T

暫定版

プラント状況（本店会見）議事メモ

東京電力株式会社

11/28 10:00' 大報班

取扱注意 公開不可

日時：平成 23 年 11 月 27 日（日）18:20~18:45

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名（カメラ 4 台）

当方：原子力・立地本部 [REDACTED]

原子力設備管理部 [REDACTED]

広報部 [REDACTED]

配布資料：

- 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第二百四十七報）
- 福島第一原子力発電所敷地内における海水中の放射性物質の核種分析の結果について（第二百四十報）
- 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について（11月26日採取分）
- 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果

[REDACTED] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 2号機圧力抑制室ガス温度と2号機原子炉格納容器HVH戻り温度の上昇について、両方の計器に不具合の可能性があるとのことだが、関連性はあるのか。

A. 本日、2号機の中央制御室にて電気試験を行ったところ、伝送系の不具合は見受けられなかった。また、同様の箇所に設置されている温度計に異常は見受けられないため、環境の変化等により計器に一過性の不具合が発生した可能性が考えられる。双方の不具合に関連性はないと考えているが、引き続き指示値を監視していく。

Q. 圧力抑制室ガス温度について、ガスと計器との距離はどの程度か。

A. 100m程度と思う。なお、圧力抑制室内の水温に有意な変動はないため、計器の一過性の不具合によるものと考えている。原因等については今後、できる限り調査して参るが、現場の線量が高いため、現場での調査については現時点で未定である。

■参考配布資料『福島第一原子力発電所の状況』については、資料の準備が間に合わなかつたため、配布せず。会見終了後、本店 1 階プレスルームにて配布す。

以上